



東風

○月○日

『明るく伸びる子』

○考える子 ○助け合う子 ○やりぬく子
○じょうぶな子

【重点目標】

認め合い 支え合い 高め合う 東小の子

令和2年9月30日発行 第7号

10月 

満足感、達成感のある学校生活を

岩内東小学校長 齊藤 信之

一雨ごとに季節が進み、秋の気配を感じるこの頃となりました。厳しい残暑が続く中でマスク着用にも熱中症が懸念されましたが、みんなそろって夏を乗り切れたことに安堵しています。

今月3日・4日には、5年生が宿泊研修を終えました。町内のマリレビューを宿泊地として「とまりんく」でのスケート、「マルヤマヒーリングファーム」での動物ふれあい体験や乗馬体験、仁木町「村田果樹園」でのぶどう狩りなど、2日間にわたり集団での貴重な体験を積み重ねました。強風の吹き荒れる中での夕飯準備は当初の計画からの変更もあったようですが、おいしいカレーライスに舌鼓を打つことができたと聞いています。出発当日を迎えるまでには、感染症対策と2日間の活動とを両立させるために悩むこともしばしばありましたが、活動する子どもたちの笑顔が、そんな苦労を吹き飛ばしてくれました。約束やマナーを守り、感謝の気持ちを忘れずに行動した今回の経験は、きっとこの子たちを一回り成長させてくれたに違いありません。

また、27日には内容や方法を大幅に縮小してではありましたが、子どもたちが楽しみに待っていた「運動会」を開催することができました。直前まで天候を心配させられましたが、予定通りに開催することができ、何よりでした。どの学年も徒競走と学年リレーのみではありましたが、家族の方々の温かな視線に見守られ応援される中、友だちと一緒に力いっぱい活動できたことは有意義だったと思います。時差登校や密を避けての応援等、ご協力や配慮をいただきましたことに感謝いたします。

コロナ禍にあり、例年とは大きく異なることばかりが続く本年度は、子どもたちに、いかにして達成感や成就感を残していくかということが大きな課題です。いつもと同じく行事を行えないことで「学校は勉強だけをする場所ではない」ということが、よりいっそうはっきりと見えてきています。子どもたちにとって学校は、安全・安心な環境の中で集団生活や多様性、適応することを学び、友だちと遊び、心身ともに成長する場所です。全人格的な教育を目指す日本の学校が、教科での学びと行事での学びを結び付けながら、一人一人の子の成長の糧として大切に扱ってきた理由がよく分かります。

新しい生活様式では3密を避けることを求められますが、本来、学校での学びは、密接、親密、濃密な人間関係をよりよく築いていく中にあります。ややもすると遅れた学びを取り戻すことばかりに目が行きがちですが、本年度が無味乾燥な一年とならないよう感染症対策に考慮しつつも、子どもたちが達成感や満足感を感じられる豊かさや潤いのある学校生活を作り出してあげたいと思います。次は、6年生の最大の行事である修学旅行です。新しい行動様式を守りながら、一人一人がとびきりの思い出を残すことができるよう万全を尽くしたいと思います。